

News release

2022年12月22日

協和キリン 高崎工場内に新たな倉庫棟を建設 ～倉庫キャパシティを高め、高品質な医薬品のグローバルでの安定供給を一層目指す～

協和キリン株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：宮本 昌志）は、自社バイオ医薬品（製品および開発品）の供給がグローバルで拡大することに伴い、主にバイオ医薬品の生産を担う高崎工場（群馬県高崎市、工場長：野村 隆治）で取り扱う品目や物量が年々増加している状況に対応するため、新たな倉庫棟の建設を決定したことをお知らせします。

医薬品の原材料、原薬や製剤の保管については厳重な管理対策を講じることが各国の規制当局から求められています。今回高崎工場内に建設する倉庫棟は、各国の規制当局が要求する基準を順守し、室温、低温、冷凍のいずれの温度でも安定してバイオ医薬品の原材料、原薬や製剤を保存することが可能です。また、地震や水害等の大規模な災害が発生した際にも継続的な製品供給や早期の製造再開ができるよう、免震構造を有し、重要な設備については浸水による破損を防止する設計を想定しています。さらに、屋上への太陽光発電設備の設置および省エネ空調機器の積極採用などにより、環境への対応も考慮しながら高品質なバイオ医薬品をグローバルで安定的に供給し続けるため、本倉庫棟を活用していく方針です。

新倉庫棟への投資額は70億円程度となる見込みで、2023年10月に着工、2025年10月に竣工、2026年1月から稼働を開始する予定にしています。

<画像：竣工イメージ>



協和キリングループは、ライフサイエンスとテクノロジーの進歩を追求し、新しい価値の創造により、世界の人々の健康と豊かさに貢献します。

【施設概要】

規模	免震構造、鉄骨鉄筋コンクリート造、地上3階建、延べ床面積 10,581 m ²
投資額	70 億円程度
用途	バイオ医薬品の原材料、原薬、製剤の保管
竣工	2025 年 10 月（予定）
特徴	1) 各国の規制に準拠した厳重な管理 2) 地震や水害などの大規模災害に対する BCP 対策 3) 太陽光発電設備の設置、省エネ空調機器の採用